

礼拝プログラム ※主の導きにより変わる事があります

- 黙祷 ヨハネ 1:5 …………… 御言葉に耳を傾け心を主に向けましょう。
- *賛美 …………… 9番 聖なる、聖なる、聖なるかな
- *交読文 …………… 31番
- *使徒信条 …………… 会衆一同
- *頌栄 …………… 174番 神の息よ
- 礼拝のための祈り ……… 成田エクレシア:河執事 天声:小林伝道師
- 賛美 …………… 528番 主よ、病の身を
- メッセージ …………… 病や悪霊を去らせる働きを通して前進した福音(使徒 18:24-19:12)
- 御言葉を適用する祈り … 会衆一同
- 賛美 …………… 271番 豊かな実りの時は来た
- 幸せと成功の宣言文 …… 会衆一同
- 献金感謝の祈り ……… パスター
- 報告 ……………
- *主の祈り …………… 会衆一同
- *祝祷 …………… パスター

天声教会は

- ・御言葉なる主の御声を忠実に聞く教会。(ヨハネ 1:1、マタイ 3:17、17:5)
- ・主の御言葉を心で信じて義に至る教会。(ローマ 10:10)
- ・全能なる主の御言葉を口で告白し、救いに至る教会。(ローマ 10:10)
- ・受けた恵みを愛と忍耐をもって実践する教会。(第二テサロニケ 3:5)

祝福の御言葉(下線にご自身のお名前を入れて宣言して下さい)

_____はいにしえの荒れた所を建てなおし、さきに荒れすたれた所を興し、荒れた町々を新たにし、世々すたれた所を再び建てる。外国人は立って_____の群れを飼い、異邦人は_____の畑を耕す者となり、ぶどうを作る者となる。しかし、_____は主の祭司となえられ、われわれの神の役者と呼ばれ、もろもろの国の富を食べ、_____の宝を得て喜ぶ。_____は、さきに受けた恥にかえて、二倍の賜物を受け、はずかしめにかえて、その嗣業を得て楽しむ。

それゆえ、_____はその地にあつて、二倍の賜物を獲、とこしえの喜びを得る。主なるわたしは公平を愛し、強奪と邪悪を憎み、真実をもって_____に報いを与え、_____と、とこしえの契約を結ぶからである。_____の子孫は、もろもろの国の中で知られ、_____の子らは、もろもろの民の中に知られる。すべてこれを見る者は／これが主の祝福された民であることを認める。_____は主を大いに喜び、わが魂はわが神を楽しむ。主が_____に救の衣を着せ、義の上衣をまわして、花婿が冠をいただき、花嫁が宝玉をもって飾るようにされたからである。地が芽をいだし、園がまいたものを生やすように、主なる神は義と誉とを、もろもろの国の前に、生やされる。(イザヤ 61:4-11)

使徒パウロは、人々についている悪霊や病を、手ぬぐいを置いてだけで追い出し、彼が足の裏で踏んだ所、すなわち福音を伝えた所はことごとく福音化され、2千年も続く教会も建てられた。ひるがえって現代、伝道方法も教会学校も、弟子訓練プログラムも、洗練され、成熟して来たはずなのに、福音は広まっておらず、退化している。今回、その原因を、伝道者アポロと使徒パウロを比較しつつ、原因と対策を学びたい。

有能な伝道者・アポロがエペソを伝道した時、12人がイエス様を信じて救われ、礼拝を守っていた。アポロは雄弁で、御言葉に精通しており、イエスがキリストである事を聖書から証明し、力強く公然とユダヤ人を論破したが、ヨハネのバプテスマしか知らず、聖霊については一切、教えなかった(使徒 18:24-28)。そうして開拓され、12人で続けられていたエペソの教会に、転機が訪れた。使徒パウロが来たのだ。パウロがエペソの教会に来た時、違和感を感じ、質問した。「信じた時に、聖霊を受けましたか?」彼らは聖霊を受けていなかったし、聖霊が来るのを聞いた事もなかった、と答えた。また彼らは、イエス様を受け入れるにあたって、ヨハネのバプテスマ、すなわち「悔い改め」の「水のバプテスマ」しか受けていなかった。

たとえアポロのように、御言葉教育を受け、聖書知識を豊富にし、雄弁で論破力があるとしても、聖霊なしの、ただ知識だけ・悔い改めだけの福音では、一部マニアックな人以外は耳を傾けない。人は皆、自分の人生や健康が、良くなる事を望み、そのためには財布の紐を緩めないし、時間も手間も惜しまない。良い実績のある塾はすぐに満員になるし、美容健康に効果ある商品は、噂されれば、すぐに品切れになる。そもそも福音、すなわち「勝利の良き知らせ」は、本来そういうものだったはずだ。主は元々、人の病を癒し、悪霊を追い出し、より健全で賢く、永遠に幸せで成功したいのちを楽しむように、と、人を救うために世に来られ、十字架にかかり、死んで、よみがえり、死とサタンに勝利して下さった。その「福音」のすばらしさ、良さを、どれだけ私達は伝えて来ただろう。どれだけ人々を解放し、幸せにし、健康にして来ただろうか。

福音のしるしは、悪霊を追い出し、新しい言葉を語り、へびをもつかみ、毒を飲んでも決して害を受けず、病人に手を置けば、病人は癒される(マルコ 16 章)であった。それこそまさに、多くの人が、してもらいたかった事である。パウロはまさにその働きをしたのであり、その働きは、力ある「聖霊」のあらわれによる。

パウロはエペソに来て、聖霊に促される働きを展開し、福音を阻む障壁を打ち破っていく。彼はまず、エペソ教会の聖徒たちに聖霊の体験をさせた。そして聖霊を通して、驚くような奇蹟を行う。パウロが行った奇蹟の内容は、天候を動かすとか、水の上を歩く、といった事ではなく、「悪霊追い出し」と「癒し」だった。奇抜な芸や、不思議を披露したところで、多くの人は「すごいね、だから何?」で終わってしまうが、本人が長年苦しみ、家族も負担と束縛を強いてきた病や、悪霊の問題、中毒や、罪の問題の解決は、大きな説得力がある。しかもパウロは、手ぬぐいを置いてだけで、その人から悪霊や病が、出て行ったのだ(19:12)。

彼はどうしてそこまで、権威があるのだろうか? 悪しき者を攻撃する「剣」の強度は、御霊と、御言葉の二本立てで決まる。彼はパリサイ人であったので、旧約聖書は全巻テフィリンしており、また新約も大部分は彼が書き、彼の中に入っている。キム先生が言っていた通り、旧新約の御言葉が五千節以上入ると、主がその人の手を取って、国を変える働きをするようになり、その人は、手で触れたものがことごとく自分のものに、足で踏んだ所がことごとく神の国のものとなっていく。思いや心、知識が、御言葉で満ち溢れるようになると、だんだんと自分の主義主張はなくなり、ただ、御霊に導かれ、御心を行う事だけを求めるようになる。

そういう人は、ただ導かれて行っただけなのに、主のスピーカーとして用いられ、ただ導かれて手置いてただけなのに、主がその人になさりたい癒しや解放が起こされ、ただ聖霊に縛られ引きずり回されて行っただけなのに、行っただけなのに、悔い改めが起こり、救いが起こり、教会が建って行く、というわがが起きるのだ。

結局、福音宣教は、聖霊ぬきに、知識や悔い改めを語っても、効果は薄いと知るべきだ。聖霊が伴って病が癒やされ、悪霊が追い出されるなら、人々は今まで縛られていた悪いものから解放され、自由になり、本人だけでなく、家族や周囲の人々の生活に大いに良いインパクトを与え、多くの人々が立ち返るのだ。聖霊に満たされ、悪霊を追い出し、へびをもつかみ、毒を受けても害を受けず、病人に手を置いて癒しを行い、足で踏んだ先々を福音化して行く私達でありますように！イエス様のお名前によって祝福します！

